

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

- 【知】 (た) 確かな学力を身につけ、自ら学ぶ、あきらめずに挑戦する生徒を育みます。
- 【徳】 (の) のびのびと主体的に行動し、人権を尊重する豊かな心の生徒を育みます。
- 【体】 (し) 心身ともに、明るく健康に生きる生徒を育みます。
- 【公】 (い) 意欲的に社会貢献する、公共心の高い生徒を育みます。
- 【開】 (新田) 新しい時代に生きる、グローバルな視野の広い生徒を育みます。

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

- <主体的に考え意欲的に学び続ける力>
- <他者と協働する力>
- <自分を大切にしながら生きていく力>

具体化した資質・能力

- 自ら問題を発見し、よりよく解決する力
- 様々な情報を色々な角度から精査し、本質を見極める力
- 積極的に周りに相談したり助けを求めたりして、困難を乗り越える力
- 相手の立場や気持ちを思いやって行動できる力

中期取組目標

- 生徒一人ひとりが、自分らしい生き方を求め続けていくことができるように、次に掲げる力を育成します。
- 仲間と協働しながら学びを深める楽しさを実感できる授業をおこなうとともに、個に応じた指導を充実し、主体的に考え意欲的に学び続ける力を育成します。
- 体験学習や地域行事への参加を充実させ、他者と協働する力を育成します。
- 他者との協働や道徳教育を通して自己理解を深め、自分を大切にしながら生きていく力を育成します。

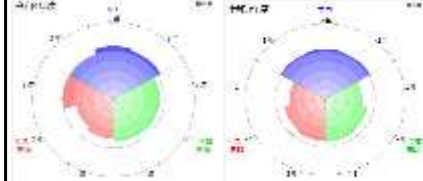
学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
学習指導	①学力・学習状況調査の結果を基に育成すべき資質・能力を明確化し、授業改善をおこなう。 ②生徒による授業評価アンケートを定期的実施し、中長期的な授業改善をおこなう。 ③学習課題を明確に示し、生徒が主体的に考え意欲的に学習に取り組む授業をおこなう。
担当	授業研究研修

学力向上に関わる本校の状況

- (1)生徒の実態
ほとんどの生徒が教師の話にしっかりと耳を傾け、真剣に授業に取り組んでいる。一方で、自信の無さから、グループワークや発表など、自分の考えや取組を表現する学習活動を苦手とする生徒が多い。

【横浜市学力・学習状況調査】



【学力】
全ての学年で横浜市全体を超えており、基本的な学力の定着が図れている。

【学習意識】
全ての学年で横浜市全体を下回っている。身近な教材を活用したりキャリア教育を通して自身の将来について考えたりするなど、生徒が学習に対する意義を認識し、主体的に学習へ取り組めるよう授業改善をおこなう必要がある。

- (2)これまでの取組状況
・メンターチームを中心とした校内研究授業を実施し、授業力の向上を図った。
・評価評定研修会を実施し、「主体的に学習に取り組む態度」の育成に向けた指導法の検討をおこなった。
・教科会を中心に指導と評価が一体となるよう、評価材や評価方法の見直しを進めた。
・少人数やTTの授業を実施した。

今年度の目標

- ・学ぶことの楽しさや大切さを実感できる授業をおこなう。
- ・デジタル教科書などのツールを活用し、個に応じた指導の充実を図る。

目標を実現するための具体的行動プラン

- ・ChormebookやGoogle Workspace for Education、MEXCBTの活用を進めるとともに、活用方法について情報交換をおこないながら、個に応じた指導の在り方について検討をおこなう。
- ・生徒にとって身近な学習課題を提示し、解決に向けた取組を引き出すことで、主体的に考え意欲的に学習に向かう態度を養う。
- ・少人数授業やTTを活用し、それぞれの生徒の習熟度に合わせたきめ細やかな指導をおこなう。
- ・授業評価アンケートを実施し、上半期の取組を振り返るとともに、下半期に向けての改善をおこなう。

※各教科については別紙

- ・上半期の成果を発表するための研究授業を実施し、教職員が相互に意見交換することで、より充実した授業がおこなえるようにする。
- ・横浜市学力・学習状況調査の結果分析をおこない、生徒の学習意識や学力の状況を把握し、より適切な授業改善がおこなえるようにする。
- ・少人数授業やTTを活用し、それぞれの生徒の習熟度に合わせたきめ細やかな指導をおこなう。
- ・授業評価アンケートを実施し、下半期の取組を振り返るとともに、来年度に向けての改善をおこなう。

※各教科については別紙

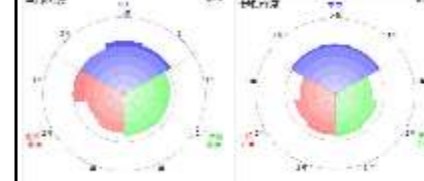
豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
道徳教育	①仲間とともに一つの課題に向き合い議論を重ねる道徳学習を通して、他者の考えを知り認め合い思いやることで、自分を大切にしながら生きていく力を育む。 ②生徒にとって身近でタイムリーな課題を取り上げ、主体的に考え解決しようとする姿勢を育む。
担当	道徳教育

豊かな心に関わる本校の状況

- (1)生徒の実態
行事や活動を好み、場を与えられれば楽しみながら活動することができる。しかし、それが自己肯定感や自己有用感にまで結びついていないことに課題がある。また、コミュニケーション能力の不足や表現力の不足から、気づかないうちに相手を傷つけたり、互いを思いやれない言動がみられたりすることもある。自分から進んで行うことはできないなど、社会規範や礼儀の面にも課題がある。

【横浜市学力・学習状況調査】



【生活意識】
2・3年生は横浜市の平均を下回っているものの、1年生は意識の向上が見られる。特に、課題としていた自己有用感の項目については、「学校行事を中心とした体験・協働的な教育活動」の成果が出てきている。

- (2)これまでの取組状況
・Y-Pアセスメントを実施し、子どもの社会的スキルの育成状況を把握した。
・「委員会活動」や「係活動」、「当番活動」を通して、課題を自ら発見し、主体的に解決する力の育成をおこなった。

今年度の目標

- ・相手を思いやり、認め合い、共に生きようとする生徒の育成を目指す。
- ・課題解決力や責任感等の醸成を目指す。

目標を実現するための具体的行動プラン

- 【「道徳の時間」の充実】
・外部講師を招いての道徳研修会や授業研究会を実施し、教職員の道徳教育に対する知見を広げる。
・教材や資料の選定、発問の仕方など授業展開を工夫し、道徳の時間の指導力向上を図る。
- 【体験活動の充実】
・「委員会活動」や「係活動」、「当番活動」に主体的に取り組むことができるように、自分たちで運営できる力を育成する。
・Y-Pアセスメントを実施し、子どもの社会的スキルに対する分析をおこなう。

- 【「道徳の時間」の充実】
・道徳の時間公開後、学級懇談会・学年だより等で道徳教育や道徳の時間について話題にし、家庭と共通理解を図る。
- 【体験活動の充実】
・職業講和、進路学習を通して、自己の適性を客観的にとらえ将来の夢や希望を持つようにする。
・Y-Pアセスメントを年2回実施し、社会的スキルの育成状況を把握するとともに、必要な支援を検討し実践する。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育	①生涯を通じて運動に親しみ健康的な生活を送れるよう、主体的に自己の課題に向き合い解決に向けた実践がおこなえる保健体育の授業をおこなう。 ②中学校給食を中心とした食育教育を推進し、自ら健康を保持増進しようとする態度を育む。
担当	保健体育・保健指導

健やかな体に関わる本校の状況

- (1)生徒の実態
・体格はほぼ全国、県平均並み。
・保健室の利用は季節の変わり目に多く、体力低下や精神的ストレスなどにより環境の変化に適応できていない事が考えられる。

【横浜市体力・運動能力調査】



【体力・運動能力】
全ての学年で横浜市平均を下回っており、基礎的な体力や運動能力の獲得に向けた教育活動の改善が望まれる。

【生活習慣】
全ての学年で横浜市平均を下回っており、基本的な生活習慣の改善に向けた教育活動の取組が望まれる。特に、1年生の食習慣については、朝食を食べないと答えた生徒が半数を超えており、食生活の大切さを保健や家庭科の学習で伝えるとともに、保護者の理解や協力を得ながら改善する必要がある。

- (2)これまでの取組状況
・体育における継続的なウォーミングアップを実施した。
・体育カードを活用して、自己の課題を把握し解決に向けた実践がおこなえるように支援した。
・小学校の栄養職員と食育担当者が連携し、食育に対する意識向上に務めた。

今年度の目標

- ・心と体を一体としてとらえ、運動に親しみ資質や能力を育てる。
- ・生徒自身が目標を定め、体力向上を図る。

目標を実現するための具体的行動プラン

- ・保健体育科では、毎時間授業開始時にウォーミングアップの一環として、基本的な筋力トレーニングを行い、体力向上が図れるように努める。種目によっては補助トレーニングを行うことで、ケガの予防・防止にも努める。また、準備・片付けを積極的に行い、ルールやマナーを守ることで安全性や公平性が保たれることを理解する。
- ・体育的行事を活用し運動やスポーツに親しむ機会を増大し、運動意欲の向上を目指す。

- ・新体力テストを有効活用し、自らの課題を見いださせ自らの運動能力・生活習慣に即した体力の向上を目指す。
- ・中学校給食(ばくばくだより)や家庭科での食教育との関連を図り、健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方を理解し、自己管理ができるようにする。